IV-JAPAN
NEWS【NO.19】2013.12.15 発行

跡形もない被害状況。

最初のメニューは鶏肉入りお粥にゆで卵

炊き出し拠点前にて

フィリピン台風緊急援助

～いち早く現地入りしたセブ島在住・IV-JAPAN 木工専門家～

11 月 8 日、フィリピン中部を直撃した超大型台風 30 号により、レイテ島、サマール島、セブ島を中心に甚大な被害が発生しました。**セブ島在住の当会専門家松本重樹氏**が道路開通直後の 11 月 10、11 日の両日いち早く被災地のセブ島最北端の町ダンアンバンタヤンに入り、状況を視察、手持ちの救援食料を配布しました。被害は甚大であり、多くの人々が住宅を失って茫然と道路に座り込み、電気・水道が止まったままで復旧の見通しは全くなく、沿道には「HELP」「NEED FOODS」と書いたプラカードを持った子どもたちが立って訴えていました。

IV－JAPAN では、直ちに松本重樹氏に現地スタッフやボランティアを急遽加えた救援チームを結成し、報道も少なく外国からの援助も届きにくいセブ島ダンアンバンタヤン町マリギン行政区に拠点を設け、生命の確保に必要な食料を提供する炊き出しを行う事を決定しました。炊き出しはセブ市内で食料を調達し、当座一日 300 人に食べ物を提供、2 週間継続を行いました。これに要する資金として約 50 万円を至急必要としていましたので、IV-JAPAN では「フィリピン台風緊急援助募金」を立ち上げました。直ちに多数の方々からほぼ目標額の寄付を頂き、必要経費を送金することができました。大変感謝いたします。

未だに停電はありますが徐々に水道や電気も復活して生活の一部は改善されてきましたが、松本氏からは「物資の援助についてはかなり偏りがあり、 知り合いの家には物資が溜まっていました。聞いた話ではこの物資を酒に換えてしまう人もいるそうです。篤志家が車から物資を投げて配っているのを目撃しましたが、力のある人、すばやい人が有利で老人、子ども、女性は不利。時には不愉快、気の毒な例もたくさん目にします。炊き出しの際も、不利になりがちな層に行き渡るように考えています。」という報告がありました。

11 月 11 日から 12 月 2 日まで第 1 期の支援を行い、12 月 6 日から 15 日までの第 2 期の活動は多くの子供たちのケアと折しもシーズンですのでクリスマスプレゼントとして学用品を配布しました。また援助の届いていない山間部への巡回配食を行いました。松本氏率いる救援隊は日本では紹介されない現地の**今の現状を報告**していますので、今後も支援をお願いします。

引き続き皆様からの募金を受け付けております。送金方法につきましては最終ページに記載しておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。当会ホームページ（http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/index.html）**で現地の活動報告を行っておりますのでご覧ください。**

目　次

1ページ…フィリピン台風緊急援助　2ページ～4ページ… JICA草の根パートナー事業、IV新スタッフ紹介　5ページ…外務省Ｎ連事業
6ページ…国際フェアー参加、JICA草の根地域提案型事業　7ページ … タイニュース　8ページ～10ページ…幸子のラオス便り
10ページ～11ページ…千客万来　12ページ …お知らせ、寄付者一覧

JICA草の根パートナー事業

～ラオス職業訓練（縫製・調理・美容）～

[中間評価に河合監事ラオス視察]

9 月 10 日から約 1 週間、当会の河合明弘監事がプロジェクト中間評価のためにラオス出張されました。卒業後に起業し自分でビジネスをしている生徒の店を訪問した他、卒業生が先生として教鞭をとっているボリカムサイ県パッカディン郡の学校制度外教育センターを視察に訪れました。ヴィエンチャン都市部だけでなく地方にも足を運び、当会のこれまでの活動の成果が地方でも小規模ながら着実に実を結びつつあるのを見ていただくことができました。

パッカディン郡学校制度外教育センターの先生たちと(右から 2 番目が河合監事)

[第 1 回卒業制作コンテスト]

9 月末には、新しい試みとなる『OJT 卒業制作発表会』を開催。調理・美容・縫製各分野別で優勝者を競うコンテスト形式で、OJT(上級コース)マネージャーや各分野のトレーナー、ラオス側カウンターパートの代表者などが審査員となり、入賞者には商品を贈呈しました。調理分野は人数が多いため、OJT 第一店舗と第二店舗でそれぞれ予選を行い、予選を勝ち抜いた 2 人が当日の決勝戦で日本料理とラオス料理を 1 品ずつ作り対決しました。美容分野は「パーティー用スタイル」をテーマに、それぞれモデルにヘアセット・メーキャップを施しその出来上がりを競い、そして縫製分野はそれぞれ自分でデザインしたブラウスを当日までに製作して、自らがモデルになり披露しました。6 ヶ月間の訓練の成果を披露する機会を設けることで生徒たちのモチベーションを高めると共に、OJT での訓練にオリジナリティを持たせ、他の職業訓練校との差別化を図ることが目的です。また、ラオスは一般的に“右に倣え”の教育スタイルであるため、独創性を養うことが難しいといわれます。ですので、この発表会のように「自分で考え、自分オリジナルの作品を制作する」という機会を与えることで、生徒たちに“自分らしさ・オリジナリティ”を養ってもらえたらと思います。

審査をする縫製トレーナー(左端)と生徒たち

プロジェクト開始以来初の試みでしたので、実施方法について事前に何度もスタッフ間で話し合いを重ね、全員で試行錯誤しながら行いました。当日はなかなかの盛り上がりを見せましたが、同時に様々な反省点もあり、次回以降の教訓として活かしたいと思います。

[ウドムサイ県モニタリング]

ウドムサイ県教育局

11 月 20 日(水)午後 1 時、私たちが乗る飛行機は曇りがかった山間を抜けウドムサイ空港に着陸しました。飛行場に降り立つと空気はひんやりと、少し風がありました。ビエンチャンから来た私たちはその気温の違いに驚くとともに、身震いをして上着を 1 枚はおりました。1 泊 2 日の弾丸出張のため、空港に降り立ったその足で早速、県庁所在地であるサイ郡から車で 1 時間半のところにあるナモ郡の学校制度外教育センターに向かいました。センターまでの道路はきれいに整備されていましたが、急カー

調理トレーナー：コンリー(左)
縫製トレーナー：セントーン(右)

ブが続く山道を走り続けました。ウドムサイ県はラオス交易の中間点という特徴がありますが、すれ違う対向車のほとんどが中国からの運送トラックでした。道路沿いに並ぶ高床式でない竹づくりの家々を見ると、ウドムサイ県の人口の 60%が少数民族であるカム族であるということがよくわかります。ナモ郡の学校制度外教育センターでは男女合わせて 270 名が学んでおり、うち 170 名が学生寮に宿泊しています。訓練生は家具・織物・縫製から 1 科目を専門科目として選択し 9 ヶ月間の職業訓練を受けるとともに、週 2 回調理・美容・機械修理・農業のいずれかを選択科目として学んでいるそうです。このセンターではIV－JAPAN職業訓練校の 2 人の中級コース卒業生がトレーナーとして働いていました。彼女たちの指導スキルを磨くために来年7月を目途に上級コース及び教員養成コースへの進学をセンター側と調整することになりました。270 名というたくさんの若い訓練生を抱えており、彼らの能力開発がラオスの人材育成において大きな成果を結ぶであろう地域であることは確実ですが、センターとしての予算規模はそれほど大きくなく、質量ともに十分な訓練を受けるにはセンターの能力強化が先決であると感じられました。

ナモ郡学校制度外教育センター
縫製コースの生徒たち

翌 11 月 21 日(木)はウドムサイ県教育局を訪問し、ウドムサイ県における今後の職業訓練の展望について話し合いをしました。ウドムサイ県では近年の経済成長につれ、観光産業の発展に伴いホテルやゲストハウスに従事する人材の育成や住宅建築に必要なドアフレームなどの家具製造業での労働需要が増えており、これらの分野での職業訓練が必要となってくることが分かりました。最後に今年の 9 月に美容分野を卒業したばかりのノイが自宅に美容室を開業したということで彼女のお店を訪問してきました。県都より7キロ奥の集落に開店し、短大が近くにあるので、お客は常にいるとのうれしい報告でした。

生徒寮　一部屋 30 人が宿泊

生徒食堂で食事の準備

学校制度外教育課長チャムロン氏（中央）
美容卒業生ノイ（右）

[ルアンナムター県モニタリング]

ウドムサイ県への出張の1週間後、今度は 11 月 26～28 日の 3 日間で中国と国境を接するラオス北部のルアンナムター県へ赴きました。県教育局を訪問し、同県教育局副局長ソンペン氏と今後の職業訓練実施計画や展望について協議し、その後同県学校制度外教育センターに行き、同センター長チッタポーン女史とも協議すると共に、センターの視察を行いました。現在同センターで実施しているのは、後期中等教育対象の相当教育プログラム(equivalency programmes)のみで、職業訓練はまだ開始しておらず、現地でのニーズや実情の調査段階とのこと。もし調理・美容・縫製の職業訓練を行う計画があり、各分野でトレーナーが必要であれば、ヴィエンチャンの職業訓練センターにトレーナー候補を派遣してもらい、トレーニングを受けてもらうよう依頼しました。3 日目には統合技術職業教育訓練校(Integrated Technical Vocational Education and training school)を訪問。ここはドイツのNGO が長年支援している学校で、緑の多い広々としたキャンパスに、りっぱな設備や備品が整っていました。農業、家畜、家具製作、調理

ルアンナムターの町並み

ルアンナムター県学校制度外教育
センターの生徒たち

など多くの分野が設置されてますが、美容と縫製分野はまだなく、ただこの学校は以前縫製工場だったらしく使われていないミシンが 18 台あるそうで、縫製分野の開講には興味を示していました。今後、何かの形で協力していければと思います。

また、この出張を利用し、ルアンナムター県出身の美容分野卒業生を訪問してきました。彼女は 2011 年の卒業生で、一時期ナーサイトンの IV 職業訓練センターでトレーナーを務めていたこともありましたが、現在は故郷のルアンナムターへ帰って自分の美容院を開き、頑張っています。お店は空港からすぐ近くの大通り沿いで立地が良く、私たちが訪問した際も来客中でなかなかの人気のようでした。

美容卒業生チャンタノム（左から 2 番目）
学校制度外教育課職員ソムハック氏（右端）

さらに、思いがけない再会もありました。現在ルアンナムター県知事を務めるピンマソン氏が、教育大臣をしていた 2001 年、当会がピンマソン氏の要請に応じてサイニャブリ県の山奥のバンヤイ村に小学校建設したことがありました。そのピンマソン氏に、空港で帰りのフライト待ちの際に会うことができ、冨永代表にとって 12 年ぶりの再会で、ちょうど来訪中であったクウェート大使夫妻も交えて会話に花を咲かせました。

IV－JAPAN新スタッフ紹介

☆どうぞ宜しくお願いいたします☆

飯村　浩

2013 年 10 月 24 日よりラオス・ナーサイトン郡職業訓練プロジェクトの第 3 年次を担当させていただくことになりました飯村　浩と申します。前職はタイのバンコク郊外にある私立学校で 12 年間国際交流と環境教育を担当していました。在タイ中に旅行では何度か訪れたことがあるラオスですが、仕事および生活は初めてなので、スタッフやトレーナーの皆さんの手助けのお陰で、何とか少しずつプロジェクトを進めています。

ナーサイトンの暮らしは、ヴィエンチャン中心部と異なりたいへん穏やかで、心が休まります。先月はスタッフの親族の食事会に 2 度招かれ、一緒に楽しく食事をしました。近所の川で獲れた魚や、自分たちの田んぼや畑で収穫した餅米や野菜などをたくさん頂きました。ラオスの自然の豊かさや、人々の優しさに触れ、本当に感動いたしました。このラオスの人々の笑顔、優しさ、穏やかさを絶やさないように、職業訓練センターの運営を安定させ、郡教育課に無事ハンドオーバーできるように頑張ります。何卒宜しくお願いいたします。

内部　有子

皆さまこんにちは。5 月から日本事務局で勤務している内部有子と申します。私はタイで 3 年間日本語教師をした後、青年海外協力隊で 2007 年から 2009 年までの 2 年間、南米パラグアイで日本語教師をしていました。

私がタイと関わりを持ったのは 13 年も前です。タイの学校で日本語教師を始めたのがきっかけでした。バンコクから列車で 12 時間、さらに市内から車で 3 時間以上かかるラオスとカンボジアとの国境近くの学校に勤務しておりました。当時はまだ携帯電話もインターネットも普及しておらず、雨が降れば固定電話も不通になる陸の孤島のような場所でした。停電になればロウソクと蛍の光の中でお喋りしたり、真っ黒に日焼けして埃まみれになった元気な生徒たちと授業したり、村の人との温かい絆に囲まれた毎日でした。タイ語がまだわからなかった私の耳にはタイ語の辞書には見当たらない言葉ばかりが聞こえてきました。ラオスに近いこの地域はタイ語ではなくイサーン語（ラオ語）を話していたのでした。

今では、村の様子も随分と変わり、外資系のスーパーも進出し、携帯もインターネットも普及し、とても便利になりました。不便だけど楽しかった昔を懐かしく思いました。そんな時、ラオスで活動する IV-JAPAN に出会い、かつてのタイの田舎を思わせるラオスに関わる仕事がしたいと思い、働かせて頂くことになりました。わからない事だらけで皆様にはお世話になりっぱなしですが、ラオスの人達の笑顔のために頑張って行きたいと思います。

外務省･日本 NGO 連携無償資金協力事業 3 年次開始

～ラオス・ナーサイトン郡職業訓練～

ナーサイトン職業訓練プロジェクト『女性・青少年の収入向上のための職業訓練プロジェクト（第 3 年次)』を 2013 年 10 月 24 日より開始いたしました。第 1 年次、第 2 年次に引き続き、縫製、美容、調理の 3 分野において職業訓練を実施しております。第 3 年次プロジェクト終了後、本事業をナーサイトン郡教育課（以下、ナ郡教育課）へハンドオーバーするために、ナ郡教育課と密に連携しながら事業を進めています。事業開始が予定よりやや遅れたため、また 3 年次は訓練生が学費を負担するため、当初訓練生数の確保が心配されましたが、ナ郡教育課職員の協力やトレーナーの努力により現在は 62 名が訓練を行っています。3 年次のトレーナーは 3 分野各 2 名ずつ、計 6 名体制で、第 5 期と第 6 期の訓練（それぞれ初級、中級）を行います。また第 6 期の中級終了後には、トレーナー確保のため 5 名のトレーナー養成コース（TOT）を実施します。本事業修了後には、現在のナ郡公務員トレーナー（縫製）に加え、美容 1 名、調理 1 名の公務員トレーナーが誕生する予定です。ナ郡教育課へのハンドオーバー後は、センター長 1 名、副センター長 1 名、公務員トレーナー3 名の計 5 名体制でセンターの運営が行われます。

3 年次も日本人専門家には、中級コースでのご指導をお願いします。調理は 1、2 年次同様高倉昌子先生に日本料理を、美容は 2 年次に引き続き早川貴恵先生に教えていただきます。10 日間という短い期間ですが、訓練生達にとっては日本の高い技術に触れる良いチャンスだと思います。またラオス人の専門家によるトレーニング、分野別のスタディツアーの実施も予定しております。

安閑なナーサイトンの人々の暮らしにも、都市生活が浸透し、消費も増え、物価も上昇しています。私としては、この穏やかな暮らしを守っていって欲しい、豊かな心を失わないで欲しいという願いで一杯です。そのためにもトレーナーおよび訓練生達がそれぞれ確固たる技術を持つことで、外部の力に翻弄されず、自分の足で立ち、歩いて行けるように、このセンターの運営が自立し安定するように努力致します。

ナーサイトン職業訓練プロジェクト　現地事業責任者　飯村　浩

ナーサイトン職業訓練センター

調理の訓練実習

縫製の訓練実習

美容の訓練実習

グローバルフェスタ、埼玉国際フェアー参加

サバイディー（こんにちは）Ⅳ-Youth 代表の柳沢です。

先日、ユースにとって初めての二つの大仕事、日比谷グローバルフェスタ(以下ＧＦ)、埼玉国際フェアー（於：埼玉新都心ケヤキ広場）を無事終えることができました。今日は皆様に二つのイベントでのユースの活動の様子などをご紹介したいと思います。

ＧＦの会場

二つの大イベントに向けて、ユースは 8 月から何度もミーティングを重ね準備をすすめてきました。「どうすれば、売上がのびるのか」、「どうすればいろんなお客様に IV-JAPAN のことを知ってもらえるようになるのか」、試行錯誤しながら話し合ってきました。メンバーの意見が異なり、壁にぶつかったときもありましたが、皆いつも真剣でした。「自分たちの手で最高のイベントにしたい！」そういう想いがあったからです。そうして迎えたＧＦ当日。朝早くから準備を進めていきました。不安はありながらも、ドキドキワクワクでした。そして、慣れないながらも声を張り上げて宣伝し、一生懸命にお客様対応をしました。そんな想いがお客様に通じたのでしょうか。二日を通しての売上は前年の約 2 倍を達成することができました。終わった後の皆の顔には最高の笑顔がこぼれていました。しかし、満足している暇はありません。埼玉国際フェアーを目の前に控えているのです。そこではＧＦではできなかった IV-JAPAN 広報専用ブースを半ブース設けることができました。そのため、商品を購入していただくお客様のほかに、IV-JAPAN やラオスについて、興味津津に話を聞いてくださるお客様がいっぱいいらっしゃいました。

ケヤキ広場での様子

二つのイベントを通して、反省もたくさんあります。しかし、それ以上に、チームワークの大切さや、お客様へ真摯に対応するなど、学ぶ点は一杯ありました。本当にありがとうございました。

読売 KoDoMo 新聞インタビュー

グローバルフェスタ・IV-JAPAN のブースに読売 KoDoMo 新聞の記者と小学生 2 人が訪れ、IV-Youth がインタビューを受けました。「国際協力の日」のこの日、子どもたちは Youth のお姉さん、お兄さんからラオスのお話を聞き、日本での生活が大変恵まれていることを感じたことでしょう。

記事の中には悲惨なラオスの現状が書かれてあり、子どもたちにどうすれば貧しい国の人々を助けることができるかを紹介しています。多くの子どもたちが国際協力に関心を持ってくれることを期待します。

新聞一面に掲載された民族衣装を着た IV-Youth メンバーと小学生

JICA草の根技術協力事業(地域提案型)採択内定！

平成 24 年度補正予算・地域経済活性化特別枠で採択された「ラオス・青少年の収入向上のための木工職業訓練」が来年の 2 月（予定）より、冒頭で紹介しました松本重樹氏が事業責任者として開始されます。

「地域提案型」とは地方自治体（埼玉県）が主体となり、開発途上地域の経済及び社会の発展に貢献することを目的としていますが、埼玉県と連携しながら事業実施は JICA と委託契約を結んで IV-JAPAN が行います。当会は 2001 年より短期の木工職業訓練を実施してきましたが、今回の事業では 3 年間で訓練所として既存施設の増改築に始まり、初級、中級、上級の 3 コースをそれぞれ 3 回実施します。木工機械も 1 台のみで訓練を行ってきましたが、新たに日本から複数台購入・輸送し、木工製品制作の充実を計ります。訓練生はグレードアップされた環境の中で技術、知識を身に着け、いわゆる手に職をつけることにより貧困からの脱出が期待できます。加えてラオス国内の木工業界の品質や生産性が向上することは勿論ですが、日本でも埼玉県内の教育機関や県内木工事業者の専門家を現地へ派遣したり、ラオスから研修生を受け入れたりする中で、ラオス国木工業界との関係を築き、ラオスをはじめとするアジア諸国への県産家具の販路拡大の機会が得られ、海外展開の足掛かりとなるでしょう。

タイ・ニュース

2013 年 10 月 26 日～11 月 4 日まで IV－JAPAN スタディツアーに参加された神原　恵さんより感想をお寄せいただきました。例年はラオスのみのツアーですが、今回は***タイの奨学金生の訪問***も含まれた貴重な体験をされました。タイニュースのコーナーで紹介させていただきます。

ラオスとタイの子どもたち

関空や成田からハノイ、そしてラオス首都ヴィエンチャンに、8 名のツアーグループです。空港で出会ったのはガイドのアムノンさん。ラオスの街のたたずまいはどこか懐かしい感じがします。メンバーは、タソモ小学校訪問のためにお菓子詰めなど準備をする中でだんだん打ち解けてきました。M 氏は折り紙に精通しておられ、その巧みな手さばきにため息しつつ、飛ぶ鶴や飛行機など教わり、子ども達とそれで遊ぶ練習もしました。当日は晴天、街中を抜けでこぼこ道を走る中で牛や犬をよく見かけました。タソモ小学校は、広い敷地の中に平屋建ての 6 教室とトイレを有する建物でした。整列した 100 人ほどの子ども達の歓迎を受けました。ツアーで同行した斉藤さんが「学校が出来て 10 年になります。皆さんが一生懸命勉強しているので嬉しいです」と挨拶されると子ども達のまっすぐな笑顔が大きく見えました。十年ひと昔と言いますが、支援を継続することはなかなか大変なことです。彼女が寄贈した学校に行きたいと思っていたので節目の年に参加できて幸運でした。早速、子ども達の身長と体重の計測を始めました。初めてでおっかなびっくりのお子さんもありましたが、皆真剣な面持ちでした。教室や外で遊んだ後、地元の方も加わって儀式が行われました。糸で結ばれ、お祈りを共にし、水と花で清めて頂きました。タートルアン寺参りやルアンパバーンでの托鉢体験などと併せて釈迦仏教の国であることを実感した次第です。

タイでは、チェンマイのガールガイドセンターの方達によって奨学生との交流など綿密に計画されたプランがありました。最初は、受刑者家族の子どもを対象にした奨学金を受けているお子さん（8 歳女児）とその家族への慰問でした。ランプーン刑務所で父親と面談したところ、父親は長時間労働ができるように覚せい剤を常用したと語り、家族と一緒に暮らす日の来ることを決意を持って願っていました。その後、本人、母親、弟が暮らしている家を訪問。そして近くにある母親の働く靴製造作業場を訪ねました。母親は縫製を担当、夜なべもしているとのこと。母子が祖母や村の人達の中で懸命に生活している様子がわかりました。奨学金は子どもの制服や学用品に充当されるとのお話でした。翌日は、チェンライ県ガールスカウト職業訓練センターで 40 人の訓練生との交流がありました。子ども達は手製の民族衣装で愛らしい踊りを披露してくれました。また、同センターの奨学生は 20 人、今回はその中から 2 人のモン族のお子さん宅を訪問しました。お二人は、はにかみながらもきりっとした感じで対応していました。

まだ他にもいろんな交流や観光があり、とても充実した内容でした。振り返ると、このようなプランが成り立つのは IV-JAPAN の両国における学校建設や奨学金制度など長い支援活動の実績があり、現地で評価されている故と納得しました。折しも、「ラオス首相、ゾウ 4 頭を贈呈、2015 年外交関係樹立 60 周年を記念して」との記事を見つけて嬉しくなりました。お世話になった皆々様に、心からお礼と感謝を申し上げます。　　**神原　恵**

← モン族生徒の家の前ツアー参加者

← ラオス・タソモ小学校

← ランプーン受刑者の子ども

← モン族の民族衣装の奨学金生

幸子のラオス便り No.25

ラオスの交通事情

2 人、3 人乗りはあたり前。なんと 4 人乗り（子ども 2 人乗せて）のバイクも走っています

ラオスで**交通事故を 3 回経験**しました。住み始めて 1 年くらいたったとき、1998 年ごろですが、家の近くで交通事故を起こしました。ラオスは日本と反対で車は右側通行ですが、右折しようとウインカーを出し、バイクが遠くに見えました。車のスピードは出していなかったのですが、バイクは止まらず突っ込んで来て、私のバックミラーにぶつかりました。初めてのことで私も気が動転してしまい何もできなかったのですが、近所の親切な人がすぐ車を出してバイクの運転手を病院に運んでくれました。バイクの運転手は無免許で地方から出てきた人でした。その時保険会社の人がラオスではおよそ運転手の 6 割が無免許だから気を付けるように、法規も知らないからと、言われました。どうりで毎日のように交通事故を見ました。

バイク 2 人乗りは認められていますが、家族の 3 人乗りは良く見かけます。庶民の脚なので、黙認でしょうか。鉄道はタイの国境ノンカイ駅からメコン川を渡り7キロ先のラオス側にタナレーン駅が 1 つあります。タイのバンコクへ行く電車が 1 日に 2 便出ているだけです。公共バスはあるにはありますが、バス停もあまりなく、降りるときはどこでも停まってくれるので便利ですが、時間も不定期で不便です。

2 回目は 8 年前の夜のウオーキング最中でした。ラオスではツクツクという 3 輪トラックタクシーが庶民の足で便利ですが、電燈のない暗い狭い脇路で 2 台のツクツクが追い越しをしていました。私の腕にツクツクが接触して、私は倒れて頭を打ったとのことです。その時意識はありませんでした。一緒に歩いていた友人がすぐ夫経由で日本大使館の医務官に連絡が付き、駆けつけてくれて、パスポート無しで国境を越え、隣国タイの病院へ運んでくれました。集中治療医室ですぐ手術

ラオスのタクシー「ツクツク」

が行われ、頭の下の首の方を 5 針縫ったとのことです。翌日は骨折した腕の手術をして、私は 1 週間後には退院できました。タイのチェンマイで看護師をしている友人がすぐ駆けつけてくれて、打ったところがもう1センチ下の首の方だったら、**生きてはいなかったでしょう**、といわれました。

3 回目は去年のことです。私は一方通行のメイン道路を運転していて交差点を通過するときに、右のわき道のバイクは一時停止しないといけなかったのですが、そのバイクは私の車の前を通り越せると思ったのか、猛スピードでぶつかってきました。バイクの若い運転手は体だけポーンと飛んで、向かい側の道路に座っています。バイクは私の車の下にはいって、その内火が燃え上がり、近所の商店の人たちが消火器を何台も出してくれて火を止めてくれました。私はすぐ運転手を病院に運ぶため、車を探していましたら、また、ご親切な人がピックアップの荷台に乗せてくれて、病院へ運ぶことができました。病院ではまずレントゲン投影費や治療費を会計で済ませないと処置してもらえません。全部お払いして診察の結果、打撲傷で命に別条はないとのことで一安心しました。すぐ事故現場へ戻りましたが、自動車は警察が預かるのだそうで、後日警察での調停に入りました。

私はすぐ弁護士を頼み、警察に出向きましたが、なんと私は 2 点の交通違反をしたとのことです。1 点は事故後車を移動させた。ラオスでは交通渋滞になろうがそのまま車を道路に止めておかなければいけないのです。私が病院へ行っている時に近所の人が道路の脇に動かしたようです。2 番目はスピード違反で、30 キロのところを 40 キロ出していたといいます。納得できず後日現場へ行き、制限速度 40 キロの表示を写真に取り、違反してないことを証明しました。結審するまでの 2 ヶ月間、私の車は警察に止め置きで、毎日駐車代

を払わなければなりません。車が帰って来た時はダッシュボードに入れていた、メガネから音楽のUSB等全部なくなっていました。メガネは乱視入りで他の人が使えないので、何度も警察にかけ合いましたが、だめです。また、事故を起こした運転手のお母さんとお姉さんが毎日私の事務所に来て、貧乏だから新しいバイクを買ってくれとか、夜警の仕事ができずに自宅療養しているので、給料分を払ってくれとかいいます。二人の指にはダイヤの指輪もあり、自動車も持っています。警察には遠くのサムヌアから元警察官だった大男のおじいさんまで出てきて私を威圧します。私は、治療費は保険で出るから領収証を取っておくように、私としては車の修理代金約 20 万円を請求したい。バイクの運転手は一時停止違反、スピード違反、自動車保険なし、と 3 点の違反が警察調書にかかれています。結局、警察は、運転手は 24 歳で成人だから家族に賠償責任はない、仕事もできずに気の毒だし、仕事に復帰しても 1 万円程度の月給では私の請求は何年かかっても払えないだろうから、この辺で承諾してほしい、と。たぶんおじいさんから袖の下をもらったのではないかと思うほど警察官に誠意は見られません。私も車がないのは不便だし、忙しいのに何度も警察へ呼ばれて不愉快な思いをしたくないので、おしまいにしました。なんといっても死者が出なくて良かったです。一方通行でも平気で反対から走ってきますし、公共バスの運転手は最も危ない運転をします。ラオスでは自分で身を守らないといけませんし、交通法を守らない、というより知らないのは当たり前だからと、それ以来運転にもっと気を付けるようになりました。

日本から来た道路補修の専門家はラオスの国道舗装率は 61%だそうで、国道以外も含めると 10%程度とのことです。街燈が無く夜は暗いので、運転しづらいし、道路は穴ぼこだらけで、特に雨季などは雨が穴にたまり、バイクはよくその穴に突っ込んで横転していました。コンクリの道路でなぜ穴ができるか不思議でしたが、日本人の専門家からコンクリの厚みが足りないからと聞きました。

ヴィエンチャンの大通り

日本の警察官が交通法規や安全運転指導に来ていました。余りの無謀運転に「ラオス人は死ななきゃ直らない」と冗談に言ったら、「死んだら直せないではないか」と反論されたそうです。また、ラオスでは車が右折する時は信号が赤でも右折できます。日本の警察官はこれが一番危ないと指摘しています。日本と反対ですから、日本で車が左折するときにいつでも曲れるということです。

また、大きな交差点以外には信号がないのも、事故に関係していると思います。道路の交差点はロータリーとか呼ばれる環状交差路（道路の中央に丸い囲いを設け、信号が無くても右折左折ができるようになっている）があります。植民地時代の名残かもしれませんし、信号を付けるのは多額の費用がかかるのでしょう。最近は自動車もバイクも数が多くなり、交通事情は渋滞が多く、歩行者は優先されないので、自分で気を付けないといけません。

ラオスのジャパン・フェスティバル

1

2

一昨年に引き続き、オールジャパンで日本大使館、日本人会、日本商工会、日本 NGO 共催で 11 月 4 日～9 日まで文化会館でジャパン・フェスティバルが開催されました。IV-JAPAN では毎年上級コース（OJT）の生徒たちが出店を出して、日本食や手作りの手芸品を販売しています。今年も浴衣にたすき掛けで完売し、10 月

上級コース（OJT）の生徒たちが出店

に上級に進級してきたばかりの生徒たちは大喜びです。IV ラオス事務所としては花嫁の内掛け衣裳一式と花婿の和服一式の貸し出しに協力し、大阪から来るボランティア美容師さんたちに着付けショウをしていただく企画を提案しましたが、美容師さん達が今年は直前に来ラオスできなくなり、結局冨永が着付けをならって実施しました。といってもラオスに着付けの先生はいないので、10 月の一時帰国時に「千葉大学留学生母と学生の会」に協力して頂き、千葉へ 2 回伺ってご指導いただきました。同会は当会顧問の吉原喜代様が会長をしています。花嫁着付は上級コースとのことで、初級・中級を飛び越しての学びで、私も 70 歳を目前に新しいことへの挑戦で、自分にまだエネルギーがあったことに驚きました。

モデルは有名な人気歌手グル―プの「オーバーダンス」のカイとトゥイに決まりました。彼らは高校生時代にラオス青年民族舞踊団の一員として日本に招へいしたことがありましたので、ボランティアで快諾してくれました。有名人同士ですので、大変盛り上がりました。また、内掛けをモデルの後ろから掛けた時は着物の美しさに大歓声が上がりました。（写真①②）

先客万来

バーシー儀式の準備を手伝う文京学院大学インターン生

【早稲田大学スタディーツアー】8 月 6 日、毎年 2 回いらっしゃる早稲田大学のスタディーツアーご一行様が来訪。今回は先生や引率の方も含め 18 名様の大所帯で、ラオス事務所の小さな会議室はあっという間に満員御礼状態でした。いつもどおり活動内容の紹介後、OJT 店舗内をご案内し、レストランで松花堂弁当を食べていただきました。

【文京学院大学インターン】8 月中旬からは文京学院大学からインターンとして原杏奈さんと高澤咲瑛さんの 2 名が約 1 ヶ月間滞在しました。OJT の生徒たちへの英語レッスンのサポートや、日本文化紹介などを行い、逆に調理・縫製・美容分野の生徒たちからはラオス料理やラオススカートの縫い方、ラオスの伝統的なヘアスタイルのセット・メークアップなどを教わるなど、日・ラオ文化交流をしてもらいました。また、生徒と同じ寮に滞在し、現地の生活を味わってもらいました。二人とも初めてのラオスで、一人は初海外旅行、ということで色々苦労もしたようですが、インターンの最後にはバーシー儀式（おめでたいことや客人を歓迎したり送り出したりする際に行われる伝統儀式）も体験してもらい、貴重な経験ができたと喜んでもらえたようでした。

【学生団体“Infinite Connection”】9 月 3 日には関西の大学生を中心としたボランティア団体「Infinite Connection」が総勢 15 名で訪問。Infinite さんは南部のパクセー県に幼稚園を建設支援され、その開校式に参加するためスタディツアーを組んでラオスに来たとのこと。当会の HP を見て活動に興味を持っていただいたそうで、ヴィエンチャン滞在中を利用して当会を訪問してくださいました。活動内容紹介後、OJT ショップのレストランで調理コースの生徒たちがつくった松花堂弁当を楽しみ、OJT ショップの見学をしていただきました。

【神戸大学経済学部石黒馨研究会】9 月 4 日には、神戸大学経済学部石黒馨研究会の方々10 名様。国際経済や、政府開発援助の効果的な利用について研究されている、ということで当日も当会の活動紹介の後に様々な質問をいただき、意識の高さを感じました。

ポーチの出来上がりをチェックするコペニカの 3 人

【学生団体“コペニカ”】さて、次なるお客様は IV-JAPAN のボランティア活動のお手伝いをしてくれている、早稲田大学学生を中心としたボランティア団体「コペニカ」から、3 名の男子学生が来てくれました。彼らは OJT の縫製コースに小物製作をオーダーしており、数日間かけてそのデザインやサンプル製作、出来上がりの品質チェックなどを生徒たちと一緒に行っていました。今回オーダーしたものは、その後 10 月に東京・日比谷で開催されたグローバルフェスタやその他様々なイベントで販売し、その利益は生徒たちへの奨学金として IV-JAPAN へ寄付する等、ラオスの教育支援のために活用していくと話していました。

【外国語大学学生団体 J&L】

さてさて、どんどん続きます。9 月 19・20 日には、コペニカと同じく IV-JAPAN のボランティア活動をお手伝いいただいている、J&L という学生団体からお二人が来所。当会の柳沢理事と同じ、外国語大学ラオス語学科の学生さんです。OJT 1&2 の 2 店舗、さらに中級コースを見学していただきました。彼女たちは、今後のボランティア活動のためにも IV-JAPAN がどのような活動をしているのか理解を深めたいと、実際に現生徒や卒業生にインタビューも行っていました。

式典に参加した高岡万葉ロータリークラブの皆様

【高岡万葉ロータリークラブ】10 月 24 に高岡万葉ロータリークラブの皆様がいらっしゃいました。美容と縫製の職業訓練設備支援を行った、ボリカムサイ県パッカディン郡の学校制度外教育センターを訪問し、ハンドオーバー式典を行いました。

プルコギ・チジミ・キムチチゲのセット

【韓国梨花女子大からのインターン・Na Kyung LEE さん】8 月から 9 月末まで、韓国人の Na Kyung LEE さんがインターンとして勤務しました。ソウルの梨花女子大の学生さんで、ラオスで事業をしている父親についてラオスに滞在しているとのこと。勉強中のラオス語でトレーナー達と一所懸命にコミュニケーションをとり、栄養と縫製の上級コース用教科書の製作を手伝ってくれました。また、韓国料理のレシピを調理コースの生徒たちに教えてもらい、OJT レストランにて『韓国料理フェア』を実施しました。

【縫製技術指導ボランティア・植村義広さん】9 月下旬からはラオス日系縫製工場「タイロン・ラオ」さんに技術指導員として日本から来ていらっしゃる植村義広さんが、週 1 回 OJT 縫製分野のトレーナー及び生徒にボランティアで指導をしてくださっています。ミシンのメンテナンス方法やその意義・重要性、布の有効活用の方法などを教えてくださり、縫製トレーナーや生徒も貴重で有益な知識を勉強でき、喜んでいます。植村さんは 2 月頃まで教えに来ていただく予定です。植村さんの滞在中、トレーナーと生徒は貪欲に、できる限りの知識と技術を吸収してほしいところです。

ミーティングに参加する上原さん

【フコク生命ボランティア上原直樹さん】10 上旬からはフコク生命の社内海外研修制度を利用してラオスでインターンをされている上原直樹さんが来ています。普段はラオスの民間企業でインターンをされていて、IV-JAPAN には週 1 回来ていただき、OJT マネージャーのサポートなどをしてもらっています。

【タイ・ラオハーフ&日本国籍のインターン生・今野秀一さん】

そして最後にラオスのラオ・アメリカンカレッジで勉強中の今野秀一さん。彼は日本語はもちろん、ラオス語やタイ語も堪能。というのも、彼は日本で生まれ育ち、国籍は日本ですが、実はラオスとタイのハーフというユニークな経歴の持ち主。高校までは日本で過ごし、現在はラオスで英語を学んでいるそう。持ち前の語学力とコンピューターのスキルを活かし、現在職業訓練センターのプロモーションビデオを製作してもらっています。今から出来上がりが楽しみです。

―NHKラジオ深夜便　次回放送日―

第 12 回目を迎えます当会代表・冨永によるラオス現地リポートが生放送されます。
深夜ですが、是非代表の生の声による生のラオス事情をお聴きください。
日時： 2014 年 1 月 11 日（土） 0 時 10 分頃　 10～15 分間
◎ラジオのインターネット配信も行われています。NHK ネットラジオのページ（http://www3.nhk.or.jp/netradio/）をご参照下さい。

フィリピン台風支援募金送金先

●ゆうちょ銀行

＜郵便局から払い込む場合＞
口座記号番号：00140-5-537168
口座加入者名：IV-JAPAN

＜銀行振込の場合＞
ゆうちょ銀行：019 支店（ゼロイチキュウ）　　当座　0537168

※振込用紙に住所、氏名（法人の場合は法人名）、電話番号をご記入の上、通信欄に「フィリピン台風」とご記入ください。
※振替払込請求書兼受領証にて領収証と代えさせていただきます。IV-JAPAN への寄付は認定 NPO 法人として税額控除の対象となります。税額控除には受領証明書が必要となりますので、銀行からの振込みの場合下記の事務所までお電話等でお知らせください。郵便局からの振込の場合通信欄にその旨お書きください。

♡♡♡ ご協力ありがとうございました!! ♡♡♡

―順不同・敬称略―

♡♡ カノック奨学金ドナー紹介 ♡♡ （2013/8/1 から 2013/12/15 まで）

熊野澄子、森　典子、又吉ミチ、関　定夫、小松文子、田中　清、佐藤美津子（4 口）、五十嵐香苗
鈴木利典、飯田益朗、斎藤加代（3 口）、栗林トセ（4 口）、和田冶江、小林明子、塩川悠子、玉寄明美
添野ふみ子、神原めぐみ（8 口）、西条喜子、松茂良米子（2 口）

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2013/8/1 から 2013/12/15 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

伊藤裕子（400 万円）、水と大地と緑の会（30 万円）、（公財）埼玉県国際交流協会（25 万円）
斎藤加代（4 万円）、渡久地澄子（3 万円）、杉本浩二（3 万円）、関　定夫（2 万円）、高澤咲鍈（2 万円）
原　杏奈（2 万円）、Sulipaphay VANHPHAKEO（1 万 5,780 円）、早稲田大学スタディツアー（1 万円）
金野喜久子（1 万円）、入江利恵子（5 千円）、北條鎮雄（5 千円）、小林久美（5 千円）、大西すみ（5 千円）
神戸大学石黒研究室（5 千円）、斎藤ヤルチュン暁子（5 千円）、斎藤敏文（5 千円）、吉野貴美子（5 千円）
宅間静枝（5 千円）、神原　恵（5 千円）、宮澤雅博（5 千円）、野口幾代（5 千円）、安田昌美（5 千円）
林　千根（5 千円）

★フィリピン台風 30 号募金者一覧★

冨永幸子（10 万 2,671 円）、豊田利久（1 万円）、豊原正尚（3 万円）、河合明弘（10 万円）、斎藤加代（2 万円）
伊藤裕子（5 万円）、飯村　浩（1 万円）、吉野貴美子（1 万円）、大野陽子（1 万円）、筑田宏子（5 千円）
八坂鉄一（5 万 20 円）、迫田晃亘（3 千円）、井藤征勝（1 万円）、小松　明（1 万 7 千円）、小松節子（3 千円）
木村電設工業（株）（5 千円）、池田真一（5 千円）、鈴木雅勝（1 万円）、宮内省司（2 万円）、海保庸子（5 千円）
金野喜久子（3 千円）、名知仁子（3 千円）

＜随時会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します
① 奨学金ドナー　年１口　**12.000 円**以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年１口　3.000 円以上　★団体及び法人 年１口　10.000 円以上

・申込方法（銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します）
郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　（※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。）
（普通）　口座番号：5038052　　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・ＩＶ－ＪＡＰＡＮ
※認定 NPO になりました。ご寄付は所得税の計算において寄付金控除の対象になります。

日本事務所
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL：048-622-8612 / FAX：048-622-8612
E-mail：iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX ： +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail： ivjapan.vte@gmail.com